

第3回

利友会環境アクション表彰 結果発表

戸田建設株式会社 環境エネルギー委員会

受賞作品決定

2024 年度利友会環境アクション表彰大賞・準大賞は以下に決定しました。

【大賞】

利他の心を持つ人材の育成と持続可能な社会の実現に向けて

服部興業株式会社 村上 正悟

ISO14000, SDGs に伴う各種環境活動の取組

日起建設株式会社 続木 高司

【準大賞】

電気使用量の削減、エコカー導入及びエコドライブと安全運転の実施

城北電気株式会社 斉藤 孝一

東京本社と寮（4 か所）CO2 削減の取組・型枠加工時に発生する廃材を削減

向井建設株式会社 大神 光司 粕谷 広史

雨宮 靖 斎藤 仁光

再生可能エネルギーを利用し、CO2 削減による環境活動に貢献する他

株式会社タケエイ 柴田 真生

鋳造アルミリサイクル率の継続的向上

不二サッシ株式会社 赤松 毅史

応募概要

各支店の利友会事務局を通して、利友会加盟企業に応募の依頼をお願いしました。

結果として 2024 年度の応募は 83 作品となりました。支店別の内訳は以下になりました。

支店別集計	東京	首都土	千葉	関東	横浜	大阪	名古屋	札幌	東北	広島	四国	九州	合計
応募数	22	4	5	8	6	4	6	3	8	8	3	6	83

お知らせ

来年度も開催予定です。4 月初旬から募集しますので環境配慮型燃料の利用だけでなく多方面で環境活動を引き続きよろしくお願い致します。

事務局 イノベーション推進統轄部 環境ソリューション部 矢吹 慎悟

mail:shingo.yabuki@toda.co.jp

利友会環境アクション表彰(大賞)

大賞

- ・企業名：服部興業株式会社（所属：広島支店）
- ・担当者：村上 正悟(むらかみ しょうご)
- ・テーマ：利他の心を持つ人材の育成と持続可能な社会の実現に向けて
- ・主な活動内容

1) 環境教育活動（林業・木材）を実施

・自社で所有する山（SGEC 認証林※）にて学生を対象に環境教育や林業体験を提供したり、イベント時に木工教室を開催している。（2023.3 慶應義塾中等部、2023.8 おかやま SDGs フェア、2023.10 岡山県県大、2023.10 平井まつり、2023.11 後楽館高校ほか）

2) 資源回収活動

・2023年4月、古紙回収ステーション「eポスト」をセブンイレブン敷地内に設置。段ボール・新聞・雑誌などを回収している。ペットボトルキャップは全事業所で収集し、リサイクルに持ち込んでいる。

3) ボランティア活動

・2023年10月、旭川清掃活動に参加、毎年社員とその家族が有志で集まりゴミを回収している。

・活動の効果・結果

- ・SDGs や環境への取り組みを通じて、イベントに参加した子供たちに自分よりも他人を思いやる「利他の心」を徐々に浸透することに役立っている。



環境教育活動



林業体験活動



古紙回収ステーション「eポスト」設置

※SGEC 認証林：Sustainable Green Ecosystem Council の略
第三者の審査機関が適切で持続可能な森林経営が行われているかを審査し、認証した森林

大賞

- ・企業名：日起建設株式会社（所属：名古屋支店）
- ・担当者：続木 高司(つづき たかし)
- ・テーマ：ISO14000, SDGs に伴う各種環境活動の取組
- ・主な活動内容

1) 社有車の省エネ活動

・自社の CO2 排出量を算定した上で環境目標を設定し、排出量削減に向け、社有車・リース車・社有重機等の入れ替え及び買い替え時に低燃費車を導入している。排出量削減目標「スコープ1および2について2030年までに2021年を基準年として42%削減する」としている。

2) みなと SDGs パートナー※登録活動

・みなと SDGs パートナー企業に登録し、港湾・海岸の環境活動を実施。年間4回以上、港湾、海岸清掃活動に参加している。

・活動の効果・結果

- ・2022年 社有車及びリース車の台数：47 台の内、低燃費車3台（6.38%）
- ・2024年2月現在 社有車及びリース車の台数：48 台の内、低燃費車5台（10.41%）
- ・CO2 排出量削減については2023年度▲9.3%（2021年比）となり順調に推移している。

算定結果

範囲	排出量 (t-CO2)
スコープ1	13,402.9
スコープ2	377.1
合計	13,780.0

目標：2030年までに42%削減(2021年比)
自社の排出量を算出し目標を設定



低燃費型重機の活用



みなと SDGs 登録と海岸清掃活動



※みなと SDGs パートナー：
国交省主催の港湾関係企業を対象とした環境の取組普及の為の制度

利友会環境アクション表彰(準大賞)

準大賞

- ・企業名：城北電気株式会社（所属：関東支店）
- ・担当者：斉藤 孝一（さいとう こういち）
- ・テーマ：電気使用量の削減、エコカー導入及びエコドライブと安全運転の実施
- ・主な活動内容

1) 省エネルギー活動

- ・ぐんま環境 GS 認定制度※を受け、太陽光発電の利用により電気使用量の削減。冷暖房設定温度の調整持続（夏は 28 度、冬は 22 度）、非使用箇所の消灯及び消灯時間の設定（昼休み等）、エコ勤の取組みを実施。（自宅が近隣の従業員には自転車通勤を薦める）

2) 廃棄物減量化活動

- ・ゴミ分別・廃棄物の細分化（3R を推進、実行）、環境問題（食品ロスの削減等）に配慮した社員教育を実施した。

3) 運行車両のその他

- ・車輛のハイブリッド化及び新型車の定期的な導入で燃費向上。発進、急停車を無くし省エネ運転の励行、交通ルールに則り安全運転を実施した。

・活動の効果・結果

- ・電気使用量の改善及び車両の燃費改善が図られた。



ぐんま環境 GS 認定制度



倉庫等に設置した太陽光パネル

※ぐんま環境 GS 認定制度：群馬県独自の認定制度
温室効果ガス削減にむけて環境マネジメントシステムを整備し組織的に運用することを支援する認定制度

測定車両：会長車を含む8台

	走行距離(km)	燃料利用量(L)	燃費(km/L)
2021年度	139,995	8,069.8	17.3
2022年度	156,425	8,448.9	18.5
2023年度	137,106	8,016.9	17.1
2024年度	133,000	7,100.0	(目標値) 18.7

車両別燃費比較表

準大賞

- ・企業名：向井建設株式会社（所属：東京支店）
- ・担当者：大神 光司 粕谷 広史 雨宮 靖 斎藤 仁光
- ・テーマ：東京本社と寮（4 か所）における CO2 削減の取組
型枠加工時に発生する廃材を削減

【おおがみ みつし かすや ひろし
あめみや やすし さいとう ひろみつ】

・主な活動内容

1) 東京本社と寮（4 か所）における CO2 削減の取組

- ・温室効果ガス削減に向けて会社として 2023 年から 8 年間で前年比 6%削減を目標とし、東京本社と寮における電気使用量の削減に努めた。具体的には、特に電力使用量の多い 1 月～2 月を節電強化期間として設定温度の設定や消灯、設備清掃を実施し。①エアコンフィルター、室外機フィンコイルの清掃 ②エアコン推奨温度の周知と管理（20～22℃、温度定点観測 3 か所/階、サーキュレーター設置）③旧型エアコン入れ替え④不在エリアのエアコン OFF の周知と管理⑤不要時消灯の徹底（部分消灯含む）⑥照明の間引き（適正照度）⑦トイレの節電モード全台 ON を実施

2) 型枠で使用する木材を加工する際に発生する廃材の削減

- ・木材の廃棄量低減の為の施策として

- ① 型枠加工場向けゴミ箱設置 ②型枠支保工用敷板として利用等を実践

・活動の効果・結果

- ・東京本社・寮における CO2 削減量：約 5.5t-CO2(7 月～8 月に 2 回目の節電強化期間実施)

CO2 削減率：前年比 93% (▲7%)・・・目標達成。その後活動は継続している。

- ・型枠材を加工する際に発生する廃材量を 25.83t(前年より 2.8t 減) 前年対比で 9%低減できた。

本社+寮（4箇所）の使用電気量及びCO2排出量について(2024年1月～2月)

	資料電気量(kWh)	最大需要電力kWh	請求額
2022年度	208,357	646	
2023年度	193,694	603	
削減	14,663	43	
比率	▲7.0%	▲6.7%	▲35.8%
CO2排出量	5,513.3(kg-CO2)		
CO2削減率	▲7.0%		

使用電気量及び削減量



型枠廃材にて加工場のゴミ箱を製作



型枠支保工用敷板として廃材利用

利友会環境アクション表彰(準大賞)

準大賞

- ・企業名：株式会社タケエイ（所属：東京支店）
- ・担当者：柴田 真生(しばた まお)
- ・テーマ：再生可能エネルギーを利用し、CO2 削減による環境活動に貢献する他
- ・主な活動内容

1) 首都圏の直轄事業所にて、工場の屋根に太陽光発電パネルを設置した。各事業所の個別の運用状態を考慮した仕様にする事で、経済的な効果も高い水準で得られるようになった。具体的には4事業所（川崎 RC、東京 RC、塩浜 RC、車両基地）にて実施。なお、東北の拠点である東北支店（実質的には関係会社のグリーンアローズ東北）でも実施済み。また、グリーン電力を使用して、施設内の重機を電動化する試験を実施中である。

2) 廃棄物を運搬する車両には燃料添加剤 K-S1 を添加して燃費改善につとめ、CO2 排出削減に努めた。

・活動の効果・結果

- ・直轄事業所のみでも年間 1,562,441 kWh/年の発電能力がある太陽光発電設備を設置できた。これにより年間 720,817 kg-CO2/年の削減効果が見込まれ、環境対策に貢献できると考える。
- ・電動重機については今後の導入を検討する。



川崎 RC の太陽光施設

	川崎RC 川崎市	東京RC 大田区	塩浜RC 川崎市	車両基地 川崎市	合計
設置棟数 [棟]	6	1	1	1	9
パネル枚数 [枚]	1,696	548	236	174	2,654
総発電量 [kWh/年]	1,010,664	304,169	142,085	105,523	1,562,441
蓄電池容量 [kWh]	-	-	159	15	174
自家消費率 [%]	13.9	4.7	72.8	33.2	
CO2削減量 [kg-CO2/年]	218,210	476,990	21,437	4,179	720,817

各事業所の発電量及び削減効果



電動重機を試験導入

準大賞

- ・企業名：不二サッシ株式会社（所属：東京支店）
- ・担当者：赤松 毅史(あかまつ つよし)
- ・テーマ：鋳造アルミリサイクル率の継続的向上
- ・主な活動内容

鋳造工程では押出の前工程としてピレット※を生産する。その原材料は、大別するとアルミ新地金とアルミリサイクル材（スクラップ）に分けられ、千葉事業所で発生するアルミリサイクル材については全量リサイクルを達成している。

※ピレット：金属スクラップを電気炉で溶融し、成分調整を施して凝固させた金属塊

アルミ新地金は精錬時に大量の電力を消費するため、温室効果ガスを大量に排出する。一方、アルミ製品の廃棄時に回収できるアルミリサイクル材は精錬せずに溶解して再利用可能であるため、アルミ新地金からアルミリサイクル材への転換は、製品原材料に関わる脱炭素・資源循環型社会の実現に大きく貢献できる。なお一般に、新地金に比べてアルミリサイクル材は、原材料として約 97%もの二酸化炭素排出量削減になると言われている。

・活動の効果・結果

- ・2023 年度は鋳造時のアルミリサイクル率 70%目標とし、達成することができた。



アルミスクラップの束



溶融炉投入状況



再生されたアルミ塊